

「神の家族としての助け合い。」 使徒2章40～47節

この聖書の箇所では、共産主義のような組織が造られています。「一切の物を共有し、財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。」(44, 45)。理想的と思われることが、歴史的には決してうまく行ったことはありません。

武者小路実篤の「新しき村」運動は、社会階級や貧富の格差や過重労働を排し、農業(養鶏のほか稲作や椎茸栽培など)を主とした自給自足に近い暮らしを行いました。労働は「1日6時間、週休1日」を目安とし、余暇は「自己を生かす」活動が奨励され、三食と住居は無料でした。私有財産を全否定しているわけではなく、毎月3万5千円が支給されました。1970年代が最多で60人でしたが、2003年には3人となっています。現在は村外会員によって公益法人化されて維持されています。

私は高校生時代に、武者小路に傾倒したのですが、この運動は、人間を理想化しており、経済的に成り立たないので無理だと思ったものです。それでも現在まで続いているのは、村長は置かず、貧富の差もなく、「人に言う前に自分でやる。」という意識が根付いていたからだそうです。高齢化と男女の問題で離村する人が続き、経済的にも人口を増やすと暮らしていけなかつたようです。

現実化したのが修道院でしょうか。修道士がイエス・キリストの精神に倣って祈りと労働のうちに共同生活(修道生活)をするための組織です。問題を起こさないために男女別で独身制を貫き、世間との交流は制限されていました。労働が重視され、自給自足だけでなく、医薬、アイコン、食品などが外部で販売されて収入源となっていました。修道院は、現在でも活動は続き、日本でも敬虔なカトリック信者の避けどころとなっています。

ペテロの説教によって悔い改め、「この曲がった時代から救われなさい。」との勧めに応じて「バプテスマを受けた。」人々は三千人と多かったのです。「すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議と行われていた。」ことは、本当に素晴らしいことです。リバイバルとはそのようなものです。その結果として、少しずつ共同生活が始まったでしょう。信者は、この世の人々と一緒に住みづらくなり、信者同士の新しい交流に感激しているのです。

更に、3章には生まれつき足の不自由な物乞いが癒されるという奇跡

が起こり、人々の注目を集めると、「祭司たち、宮の守衛長、サドカイ人たちが：二人に手を掛けて捕らえた。」(使徒4:1-3)。ペテロとヨハネは彼らに答えます。「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。」(同19)。そして、「信じた大勢の人々は、心と意思を一つにして、だれ一人自分が所有しているものを自分のものと言わず、すべてを共有していた。」という信者には理想的な共同社会が成立します。

しかし、その後、「エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。」となつて、共同生活の維持は無理なものとなつていきます。

ルターが修道院制を否定したのは、修道院では、階級や序列が設けられるからです。もう一つは、宗教的な誓願に価値を与えることは、神の恵みの福音によって解放された良心を閉じ込め、信者を「善行」の中に幽閉することになるからです。

「神の家族」として教会を考える時に注意しなければならないことは、慈善行為や善行が中心になつてはいけないことです。聖書の教えは自助努力(Ⅰテサロニケ4:11、Ⅱテサロニケ3:10)であり、教会は信仰共同体であつて、慈善団体ではないからです。制度的に介護や保険というものがあるので、教会員でも基本的にはそれらを利用して自らの生活の維持を図るべきです。教会員同士でそれを行うと、助ける人の生活や仕事に支障が出てくるからです。むしろ、個人的には、賜物として「分け与える人」、「慈善を行う人」(ローマ12:8)がおります。

これからの時代にクリスチャンはどのように生きれば良いのでしょうか。「キリスト・イエスにあつて敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けなす。」(Ⅱテモテ3:12)。「あなたがたはあらゆる迫害と苦難に耐えながら、忍耐と信仰を保っています。」(Ⅱテサロニケ1:4)。「神の家族」は信仰を守り、伝道をするという教会の目的に立つた信仰共同体です。内部互助組織になると、本来の宣教命令が損なわれてしまいます。

日本の教会では、牧師や信者のリーダーが教会員や求道者の世話に多忙となり、霊的な交流が損なわれてきました。「家々でパンを裂き、喜びと真心をもつて食事をともにし」は、家庭集会のためです。奉仕とは、神に仕えるものであり、教会が伝道活動にあたるためのものです。本来の伝道活動に熱心となりながら、予想される困難に耐える霊的な結び付きを強くしていかなければなりません。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

使徒 2:40 ペテロは、ほかにも多くのことばをもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

2:41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

2:43 すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議とするしが行われていた。

2:44 信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、

2:45 財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。

2:46 そして、毎日心をつにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

2:47 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。

Act 2:40 And with many other words he testified and exhorted them, saying, "Be saved from this perverse generation."

2:41 Then those who gladly received his word were baptized; and that day about three thousand souls were added to them.

2:42 And they continued steadfastly in the apostles' doctrine and fellowship, in the breaking of bread, and in prayers.

2:43 Then fear came upon every soul, and many wonders and signs were done through the apostles.

2:44 Now all who believed were together, and had all things in common,

2:45 and sold their possessions and goods, and divided them among all, as anyone had need.

2:46 So continuing daily with one accord in the temple, and breaking bread from house to house, they ate their food with gladness and simplicity of heart,

2:47 praising God and having favor with all the people. And the Lord added to the church daily those who were being saved.